

製品名: DRP1 ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe21581**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA,IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG,Kappa
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.3mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	PBS、50%グリセロール、0.05%プロクリン 300、0.05%保護タンパク質
精製	プロテイン A

応用

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000,IHC 1:200-1:1000,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000,IP 1:50-1:200
分子量	Calculated MW:83kD;Observed MW:83kD

抗原情報

遺伝子名	DNM1L
別名	DNM1L;DLP1;DRP1;Dynamin-1-like protein;Dnm1p/Vps1p-like protein;DVLP;Dynamin family member proline-rich carboxyl-terminal domain less;Dymple;Dynamin-like protein;Dynamin-like protein 4;Dynamin-like protein IV;HdynIV;Dynamin-rela
遺伝子 ID	10059.0
SwissProt ID	O00429
免疫原	-

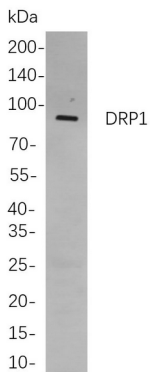
背景

細胞局在: 細胞質。この遺伝子は、GTPaseのダイナミンスーパーファミリーに属するタンパク質をコードする。コードされているタンパク質は、ミトコンドリアおよびペルオキシソームの分裂を媒介し、発生的に制御されたアポトーシスおよびプログラム壊死に関与する。この遺伝子の機能不全は、アルツハイマー病を含むいくつかの神経疾患に関与している。この遺伝子の変異は、常染色体優性遺伝疾患であるミトコンドリアおよびペルオキシソーム分裂の欠陥に起因する致死性脳症 (EMPF) と関連している。選択的スプライシングにより、異なるアイソフォームをコードする複数の転写産物バリエーションが生じる。[RefSeq 提供、2013年6月]

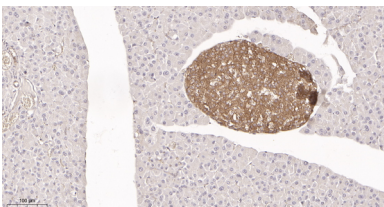
研究分野

-

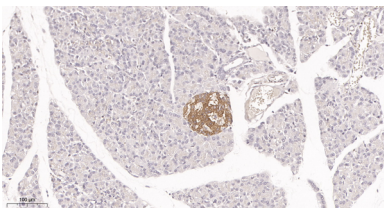
画像データ



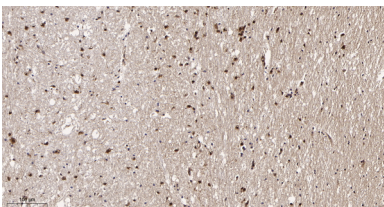
DRP1 ウサギ mAb を用いたラット脳細胞ライセートのウェスタンブロット解析。抗体の検出には HRP 標識ヤギ抗ウサギ IgG 抗体を用いた。



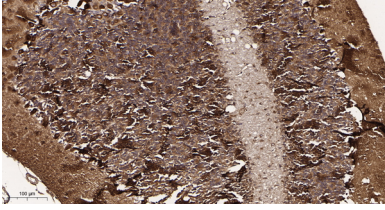
パラフィン包埋マウス脳組織の免疫組織化学分析。1、DRP1 ウサギモノクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2、EDTA pH 9.0 を使用して抗体を回復させた (>98°C、20分)。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。



パラフィン包埋ラット脳組織の免疫組織化学分析。1、DRP1 ウサギモノクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2、EDTA pH 9.0 を使用して抗体を回復させた (>98°C、20分)。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。



パラフィン包埋ヒト脳組織の免疫組織化学分析。1、DRP1 ウサギモノクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2、EDTA pH 9.0 を使用して抗体を回復させた (>98°C、20分)。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。



パラフィン包埋マウス脳組織の免疫組織化学分析。1. DRP1 ウサギモノクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晩)。2. EDTA pH 9.0 を使用して抗体を回復させた (>98°C、20 分)。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。